

▶ 株主メモ

事業年度	毎年2月21日から翌年2月20日まで
定時株主総会	毎年5月開催
基準日	定時株主総会・期末配当金／毎年2月20日 中間配当金／毎年8月20日
公告方法	そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日 電子公告により行ないます。 http://www.palemo.co.jp/ ※事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告を することができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

株主名簿管理人および
特別口座の口座管理機関

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

三井住友信託銀行株式会社

以前は、旧株式会社鈴丹の株主様の特別口座に関するご照会先は、三菱UFJ信託銀行株式会社でしたが、三井住友信託銀行株式会社に変わりました。

株主名簿管理人 名古屋市中区栄三丁目15番33号
事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先 ☎ 0120-782-031

▶ 株主優待

株主の皆様方のご支援に対する感謝の印といたしまして、毎年2月20日現在の株主名簿に記載された300株以上保有の株主の皆様方に対し、下記のとおり株主様ご優待品を進呈いたしております。



300株以上	1,000株未満	1,000円のクオカード
1,000株以上		3,000円相当のカタログギフト

愛知県ファミリー・フレンドリー企業登録



登録年月日 平成20年2月15日

登録番号 C0024

仕事と生活の調和のとれた働き方ができる職場環境づくりに取り組む
愛知県ファミリー・フレンドリー企業として登録いたしました。

上場株式等の配当等に係る10%（所得税7%、住民税3%）
軽減税率の廃止について

2014年1月1日から上場株式等の配当等に係る10%軽減税率（所得税7%、住民税3%）は廃止され、本来の税率である20%（所得税15%、住民税5%）となりました。
これにより、2014年1月1日から2037年12月31日までは「復興特別所得税」を含め20.315%の源泉徴収税率が適用されます。

株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。
証券会社の口座のご利用がない株主様は、左記電話照会先までご連絡ください。

特別口座について

株券電子化前に「ほふり」（株式会社証券保管振替機構）を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である左記の三井住友信託銀行株式会社に口座（特別口座といいます。）を開設しております。

株式関係業務におけるマイナンバーの利用

法令に定められたとおり、支払調書には株主様のマイナンバーを記載し、税務署へ提出いたします。
[主な支払調書]
*配当金に関する支払調書
*单元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引に関する支払調書
マイナンバーの利用範囲には株式の税務関係手続きも含まれます。
株主様は、お取引の証券会社等へマイナンバーをお届けください。

PALEMO CO., LTD.

第32期 報告書

[2016.2.21.～2017.2.20.]

～Doing it～

皆様の豊かさ・成長・満足の実現のために

次なる成長に向けて、経営基盤の構築を進めてまいります。

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。当社第32期報告書をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

この第32期におけるわが国経済は、企業収益や雇用・家計所得に緩やかな回復基調が見られる一方で、消費者の節約志向はいまだに根強いものがあるほか、インバウンド消費も減速局面に入るなど、個人消費の改善ペースについては緩慢なものとなりました。また、英国のEU離脱問題や米国の新政権誕生などにより、為替や株価が乱高下するなど、景気の先行きは不透明な状況で推移しました。

当社が属する専門店業界は、マーケット環境については大きな変化が見られない中、引き続き商業施設や専門店の間で優劣が鮮明となるほか、販売チャネルの多様化に伴いECサイトの市場規模の拡大が進みました。また、業界全体における人手不足が深刻化するなど厳しい環境が続きました。

こうした中において、当社は「事業構造改革」の柱である「MD(マーチャндаイジング)変革」、「サービス変革」における諸施策を通じて、基幹事業の収益性向上と商品効率の改善を図ってまいりました。また、不採算店舗の閉店を進める一方で、今後の成長に向けた新規ブランドの開発、育成にも注力してまいりました。このような取り組みから、売上高は不採算店舗の閉店等により前年同期比で減収となりましたが、既存店の売上高前年同期比が伸長したことから、営業利益、経常利益ともに大幅な増益となり、当期純利益につきましては4期ぶりの黒字となりました。

「事業構造改革」の3rdステージにあたる第33期におきましては、目標である増益を達成し、中期計画の最終年度である第34期以降の増収増益に向けた基盤構築を進めてまいります。そして、その実現に向けては全事業が安定した収益基

盤を構築し、新規ブランドを軌道化させるとともに、ローコスト経営による営業費の削減にも継続的に取り組む必要があると考えております。

つきましては、今後のマーケット環境への対応に加え、収益の更なる改善、財務体質の強化に最善を尽くすことを重視いたしまして、当期末配当金につきましては、前期末に引き続き無配とさせていただきますことを謹んでご報告申し上げます。なお、当社は復配に向けて準備を進めておりますが、今後の業績を勘案した上で適切な時期に公表させていただきます。

また、当社は平成28年10月24日より、主要株主が、エンデバー・ユナイテッド社に異動となり、新たな経営体制のもと、経営基盤の強化ならびに中長期経営戦略の推進に着手しております。今後も自立経営を進めるとともに、引き続き企業の社会的使命を重視いたしまして、企業統治ならびにコンプライアンス体制の強化など、企業の質的向上にも努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、当社の事業戦略により一層のご理解とご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

持株会社体制への移行と今後の取り組み

当社は平成29年8月21日(予定)付で「パレモ・ホールディングス株式会社」へ商号を変更し、引き続きグループ会社の経営管理を行なう持株会社として上場を維持する予定です。これにより、当社グループの経営効率の向上、事業環境および競争状況の変化への柔軟な対応ならびに次世代リーダーの育成に繋げ、人材への積極投資も推し進めることで今後の成長に向けた基盤づくりを進めてまいります。

代表取締役社長

吉田 馨

指針

正しい経営
安定成長

ローコスト経営
人財経営

Q.2 今後の方針および次期の施策についてお聞かせください。

次期の方針は、これまでの成果と反省を踏まえ、基幹事業の収益向上を追求するとともに新規ブランドの育成に注力していく方向性を打ち出し、「事業構造改革の完遂と再成長に向けた体制づくり」としました。施策については目標である増益を実現するべく、「基幹事業の基盤固め」、「増収、成長に向けた基盤構築」、「健全な経営基盤の構築」を重点課題として取り組んでまいります。

「基幹事業の基盤固め」については、引き続きアパレルのレギュラー事業においては、立地特性や売上規模に合わせた商品供給の最適化を進めるとともに、新規ブランドについてはコンセプト、MDの精度向上に磨きをかけ、今後の出店拡大に繋げてまいります。また、バラエティ雑貨のシーベレット事業については、店舗特性に合わせた商品展開の見直しと、生活雑貨を中心とした品揃えの強化により収益回復に努めてまいります。

「増収、成長に向けた基盤構築」については、アパレルの新規ブランド出店と既存店舗の改装に加え、ラージサイズ市場での優位性を活かし、ネット通販、パレモバ(メルマガ会員)を含めた販売促進の連動により顧客の囲い込みを進めます。雑貨事業においては、バラエティ雑貨を中心に既存店舗の業績回復を優先課題と考え、個店対応力の強化に努めてまいります。

「健全な経営基盤の構築」については、店舗における恒常的な欠員の解消を全社的なプロジェクトとして対応してまいります。また、次世代のリーダー育成および人材への積極投資にも努め、今後の成長に向けた基盤づくりに努めてまいります。

これまでの「事業構造改革」につきましては、商品面の改善が進行し、販売面においては店舗で恒常的に欠員が発生するなど、販売サービスレベルの面で課題が残っております。次期は営業部門をアパレル、雑貨それぞれの事業部直轄の体制とするほか、全社的なプロジェクトでこの課題に取り組み、店舗での欠員解消、販売サービスレベルの向上を果たすことで、「事業構造改革」の完遂を目指してまいります。

また、今後更に加速する経済環境の変化に適応するため、迅速な改革を可能とし、経営資源の最適な配分を行ない、効率的な経営管理を行なうべく、持株会社体制に移行することとしました。

Q.1

当期の業績についてお聞かせください。



当期の業績は、売上高246億93百万円(前年同期比9.6%減)、営業利益6億27百万円(前年同期比360.5%増)、経常利益6億45百万円(前年同期比242.6%増)、当期純利益3億24百万円(前期は当期純損失3億13百万円)となりました。

売上高におきましては、アパレル事業で前期に引き続き商品鮮度の改善が進行し、年間を通してプロパー販売が好調に推移しました。また、春休みやゴールデンウィークをはじめ、夏シーズンの猛暑など、比較的天候にも恵まれ、季節ごとの主力商品の販売が総じて堅調な推移となりました。一方で、雑貨事業においては、バッグ業態が比較的安定した推移となったものの、バラエティ雑貨の在庫改善が遅れたことから苦戦が続いたほか、ライフスタイル提案型雑貨も伸び悩んだことで、雑貨事業全体としては低調に推移しました。このように当期は雑貨事業の苦戦はありましたが、アパレル事業における基幹ブランドの収益拡大が牽引し、既存店売上高前年同期比は103.9%となりました。

利益面におきましては、アパレル事業において前期より取り組んでおります商品供給ならびに在庫コントロールの最適化が進み、年間を通してプロパー商品の消化率が高まり、売上総利益率は前年同期比0.9%の改善となりました。また、不採算店舗の閉店等による経費削減から営業費の低減も進み、営業経費率は前年同期比で1.1%減となったことから営業利益、経常利益ともに前期を大幅に上回る結果となりました。

店舗の出退店におきましては、新規出店は9店舗にとどまり、不採算店舗を中心に88店舗を閉店した結果、当期末店舗数は495店舗となりました。

アパレル事業の概況

GENERAL CONDITION OF
APPAREL BUSINESS

ECサイトの成長に伴い、ネット通販の利用者が年々増加する中で、実店舗としての役割も大変重要であると考えております。新規ブランドの出店により新たな顧客を獲得する一方で、更なる顧客の囲い込みが可能な店舗については業態転換を含めた改装を進め、既存店舗の底上げにも努めております。

当期は「Lilou de chouchou(リルデシュシュ)」2店舗、「DAISY MERRY(デイジーメリー)」2店舗の出店に加え、「Ludic Park(ルディックパーク)」、「9 SQUARE(ナインスクエア)」といった既存店舗からの業態転換など、次代に向けた新たな収益基盤の育成と成長に向けた重要な一年であったと認識しております。

ギャルフィット



GAL FIT

「フェミニン&クール」をテーマに、リラックス感のあるカジュアルスタイルとエッジの効いたモードスタイルを提案します。

スズタン



SUZUTAN

「エレガンスー&フェミニン」をテーマに、幅広い客層へ最新トレンドと着まわしのきくベーシックアイテムを提案します。

リルデシュシュ



Lilou de chouchou

いつまでもかわいく輝いていたい女性に向けて、毎日のHAPPYを演出します。エレガンスをベースに程よくトレンドを織り交ぜながらON&OFFあらゆるシーンも自分らしく楽しめる上品で女性らしいファッションを提案します。

リシェリエ



Recherie

「フェミニン」をキーワードに、ベーシックでリラックス感のある大人のカジュアルスタイルを提案します。

リジェイ・スプル



Re-J

「デイリー&リラックス」をテーマに、ベーシックアイテムとシーズントレンドを程よくMIXした“大人カジュアル”を提案するラージサイズSHOPです。

SUPURE

「フェミニン&カジュアル」をテーマに、上品さと着心地を大切にラージサイズSHOPです。

デイジーメリー



DAISY MERRY

大人の心と少女の心を持ち合わせたいくつになってもかわいくオシャレでいたい女性に向けて…かわいいだけでなく、どこかボーイッシュ、ほんのりガーリーと、遊び心を取り入れた今欲しいリアルクローズを手頃なプライスで提案します。

ルディックパーク (NEW)



Ludic Park

遊び心を程よく取り入れた自分らしいファッションを、楽しくセレクトできるショップです。エレガンス・クール・カジュアルまで幅広い客層へ向けた最新トレンドと、着まわしのきくベーシックアイテムをお手頃プライスで提案します。

雑貨事業の概況

GENERAL CONDITION OF
MISCELLANEOUS GOODS BUSINESS

PALEMO

雑貨業界全体が低調に推移する中、当社におきましては、基幹事業のバラエティ雑貨「Siebelet(シーベレット)」を中心に、MDの再編による既存店舗の業績回復と、在庫の適正化に向けた諸施策を優先的に実施しました。この結果、商品鮮度の維持、改善が図られ適正な商品調達が可能となりました。ライフスタイル提案型ブランドの「木糸土」、「Hare no hi

シーベレット



Siebelet

「毎日、楽しく」をテーマに、話題性あるファンシー雑貨と生活雑貨を提案します。

インセンス



INCENSE

「MY BAGを探す楽しさや、見つけた時の喜びを共有できるBAG SHOP」自分のスタイルを確立した大人の男女に、「オンリーワン」のバッグを提案します。

▶アパレル事業ブランド別の状況

(単位:店舗)

	出 店	退 店	ブランド転換	当期末店舗数
レギュラー事業部	5	46	3	274
ギャルフィット・スズタン他	0	36	△2	226
リルデシュシュ	2	0	2	4
デイジーメリー	2	0	2	4
新規ブランド(※)	0	0	3	3
リシェリエ	1	5	0	23
ドスチ	0	5	△2	14
ラージサイズ事業部	2	5	0	45
アパレル事業合計	7	51	3	319

(※) 新規ブランドとは、「9 SQUARE」「Ludic Park」の2ブランドとなります。

(ハレノヒ)」については、厳しい競争環境の中でリブランディングによる新たな価値提案の開発と独自性の追求に取り組んでおります。また、バッグ専門店の「INCENSE(インセンス)」については、カジュアルからビジネスまでの幅広い品揃えと、豊富な商品知識による接客販売で、引き続き安定した収益確保に努めてまいります。

イルーシー300



illusie300

「日常に彩り」をテーマに、300円のプチプライスでライフスタイルを提案します。

木糸土・ハレノヒ



木糸土

木・糸・土の素材を活かし、「無理なく、無駄なく」をコンセプトに、シンプルで飽きのこない生活雑貨を提案します。

Hare no hi

「ナチュラルライフ」をテーマに、アパレル、雑貨をトータルにコーディネート。ライフスタイルを提案します。

▶雑貨事業ブランド別の状況

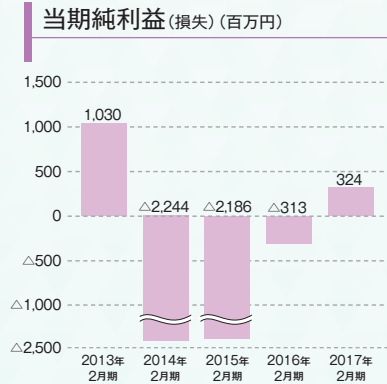
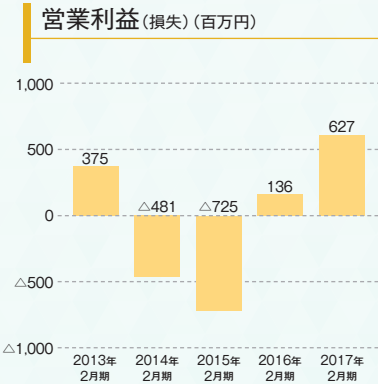
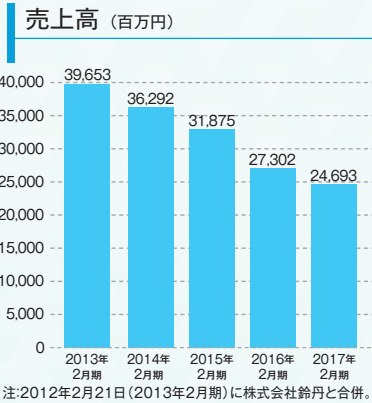
(単位:店舗)

	出 店	退 店	ブランド転換	当期末店舗数
シーベレット事業部	0	15	△1	73
イルーシー300	2	7	2	37
インセンス	0	1	0	31
木糸土・ハレノヒ	0	11	△2	19
雑貨事業合計	2	34	△1	160
複合店(※)	0	3	△2	16
全社合計	9	88	0	495

(※) 複合店とは、アパレル事業、雑貨事業のブランドを複数合わせた店舗です。

貸借対照表			(単位:百万円)
	当事業年度 (平成29年2月20日現在)	前事業年度 (平成28年2月20日現在)	
■資産の部			
流 動 資 産	5,840	4,581	
固 定 資 産	5,143	5,840	
有 形 固 定 資 産	611	571	
無 形 固 定 資 産	6	3	
投 資 そ の 他 の 資 産	4,525	5,264	
資 産 合 計	10,984	10,421	
■負債の部			
流 動 負 債	6,274	5,102	
固 定 負 債	2,632	3,566	
負 債 合 計	8,907	8,668	
■純資産の部			
株 主 資 本	2,076	1,752	
資 本 金	1,229	1,229	
資 本 剰 余 金	1,104	1,104	
利 益 剰 余 金	△254	△578	
自 己 株 式	△2	△2	
純 資 産 合 計	2,076	1,752	
負債及び純資産合計	10,984	10,421	

キャッシュ・フロー計算書			(単位:百万円)	
	当事業年度 〔平成28年2月21日から 平成29年2月20日まで〕	前事業年度 〔平成27年2月21日から 平成28年2月20日まで〕		
④ 営業活動によるキャッシュ・フロー	1,335	916		
⑤ 投資活動によるキャッシュ・フロー	541	620		
⑥ 財務活動によるキャッシュ・フロー	299	△1,200		
現金及び現金同等物の増減額	2,176	336		
現金及び現金同等物の期首残高	592	256		
現金及び現金同等物の期末残高	2,768	592		



損益計算書			(単位:百万円)	
	当事業年度 〔平成28年2月21日から 平成29年2月20日まで〕	前事業年度 〔平成27年2月21日から 平成28年2月20日まで〕		
① 売上高	24,693	27,302		
売上原価	10,971	12,378		
売上総利益	13,721	14,923		
販売費及び一般管理費	13,094	14,787		
② 営業利益	627	136		
営業外収益	31	68		
営業外費用	12	16		
経常利益	645	188		
特別利益	62	5		
特別損失	179	355		
税引前当期純利益又は損失(△)	528	△161		
法人税、住民税及び事業税	210	194		
法人税等調整額	△6	△43		
③ 当期純利益又は損失(△)	324	△313		

- POINT
- ① 売上高は246億93百万円となり、前事業年度末に比べて26億8百万円減少しました。主な要因は、不採算店舗閉店による店舗数の減少等によるものですが、既存店売上高前年同期比については103.9%と好調に推移し、期初計画数値を上回る結果となりました。
 - ② 営業利益は6億27百万円となり、前事業年度末に比べて4億91百万円増加しました。主な要因は、既存店の収益向上と不採算店舗閉店に伴う赤字額の減少及び営業費の低減によるものです。
 - ③ 当期純利益は3億24百万円となり、前事業年度末に比べて6億37百万円増加し4期ぶりに黒字に転換しました。主な要因は、営業利益及び経常利益の増加と、前事業年度末に比べて特別損失が1億75百万円減少したことによるものです。
 - ④ 営業活動によるキャッシュ・フローは、13億35百万円となりました。主な要因は、税引前当期純利益5億28百万円とたな卸資産の減少5億79百万円によるものです。
 - ⑤ 投資活動によるキャッシュ・フローは、5億41百万円となりました。主な要因は、退店による差入保証金の回収によるものです。
 - ⑥ 財務活動によるキャッシュ・フローは、2億99百万円となりました。主な要因は、借入金の増加によるものです。

会社概要 (2017年2月20日現在)

社 名 株式会社 パレモ
設 立 1984年11月22日
資 本 金 12億2,925万円
本 社 所 在 地 〒492-8680
愛知県稲沢市天池五反田町1番地
事 業 所 パレモ東京 〒103-0006
東京都中央区日本橋富沢町12番20号
日本橋T&Dビル4階
パレモ大阪事務所 〒532-0011
大阪府大阪市淀川区西中島5丁目7番19号
第7新大阪ビル 1階
従 業 員 数 2,608名
(ナショナル社員168名、エリア社員他2,440名)
事 業 内 容 レディースアパレル、バラエティ雑貨、
バッグの専門店チェーン
ホームページ <http://www.palemo.co.jp/>

役員 (2017年5月18日現在)

代表取締役社長	吉 田 馨
常務取締役	永 井 隆 司
取締役	江 里 口 直
取締役	木 根 洸 明
取締役	竹 中 幹 雄
取締役	永 田 昭 夫
常勤監査役	土 田 新 一 郎
監査役	平 岡 繁
監査役	中 村 弘
監査役	今 枝 剛

注：取締役のうち、永田 昭夫氏は社外取締役であります。
監査役のうち、中村 弘、今枝 剛の両氏は社外監査役であります。

株式情報 (2017年2月20日現在)

発行可能株式総数	27,360,000株
発行済株式の総数	12,051,384株
単元株式数	100株
株主数	6,887名

大株主 (2017年2月20日現在)

株 主 名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
エンデバー・ユナイテッド・パートナーズ・スリー投資事業組合 エンデバー・ユナイテッド・パートナーズ・ツー株式会社	7,493	62.17
個人株主A	587	4.87
株式会社SBI証券	552	4.58
パレモ従業員持株会	205	1.70
株式会社三菱東京UFJ銀行	130	1.07
個人株主B	91	0.76
個人株主C	55	0.45
個人株主D	54	0.44
岩間商事株式会社	52	0.43
日本証券金融株式会社	51	0.42

株主構成 (2017年2月20日現在)

